

慈眼

第6号

発行所
小城市三日月町三ヶ島
妙勝寺内
TEL 0952-73-2981
FAX 0952-73-2981

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
林 孝 隆
印刷所 中野印刷所

「誓願に生かされて」

佐賀県布教師会々長

三日月町 妙暹寺住職

辻 智 彰



長男が小学校の四年生の春のことです。突然に左足が痛み動かなくなりました。診断の結果大腿骨の骨頭部分がスパッと三センチ程無くなっていてというのです。生きていく人間の骨が無くなる。それも成長期にある子供の骨が消えたのです。悲しみというより呆然自失。体中の力が抜け落ちる。恐ろしい事に私の信心がスート抜けて行く。それからというもの私の心の底には、無限の悲しみ、淋しさ、

怒りが絶えず渦巻き、たまりかねて本堂へ走り込み、泣きながら法華経を読み、題目を唱え狂人のように木鉦を叩きつけるのです。

しかし一向に怒りは治まりません。

私は何も悪いことはしていません。まして子供が何をしたらと言うのですか、何で吾子にかかる奇病を与えるのですか。信仰に生きて来た私の哀れな、無惨な

敗北でした。信心の世界にいて仏の姿を見失った哀れな人間になってしまったのです。ところで性懲りもない人間の愚痴

や怒りや悲しみをジッと温かい心で聞いて下さるのは仏さまだけです。

仏の本質は尊厳にあるのではなく、はてしない慈悲にあるのです。

だから仏には感謝や報恩の美しい心ばかりではなく、どうにもならぬ心をブツブツけるのです。それは決して無駄なことでも、愚かなことでもなく、冒瀆でもありません。苦しみの中で読誦する法華経は新たに光明を授けてくれました。

妙莊嚴王本事品の一節

「我を饒益せんと欲するをもつての故に我が家に來生せり」の経文は、新しく仏を再発見させてくれたのです。

善知識たるべき大因縁をもってこの子は私の家に生まれて来たのです。子供の病を縁として授かった仏の救いは、更に尊く優しいものでした。この慈悲こそが積尊の誓願であり、宗祖の誓願であります。この誓願こそわれわれ法華経を頂戴し広めようとするものの誓願として受け継がなければならぬ誓願なのです。

積尊が誓願した根本は、あらゆるものを自分と等しくしたい。仏にしたい広大な慈悲心を身につけさせたいという点にあります。

積尊は、この大慈悲と大誓願をもってあらゆるものの苦悩を癒す大良薬を調合し、これを服して心身の病を治すよう誓願しつづけられています。

その良薬とは南無妙法蓮華経なのです。信仰は自分を殺すことです。しかしその信仰から出てくる願いが自分をもう一度生かすのです。「妙とは蘇生の義なり蘇生とはよみがえるなり」

信に死して願に生きるといふ世界こそが末法における法華経の行者の真の精神です。



立教開宗七百五十年
慶讃シンボルマーク

立教開宗750年慶讃「日蓮宗中央大会」

〈発願の集い〉

とき 平成9年5月28日(水)
ところ 神奈川県(横浜アリーナ)

“後日県内各寺院を通じて参加者募集”

お題目総弘通運動「佐賀大会」

とき 平成8年10月26日(土) 午前10時
ところ 佐賀市文化会館

第1部 護法の祈り 第2部 講演(丸山照雄師)
第3部 清興(佐賀にわか) 筑紫美主子一座

【特集】

《お釈迦さま》

お釈迦さまは、今から約二千五百年前に、インドで活躍されました。そしてその教えは仏教と呼ばれ私達が今日信じる法華経をはじめ数多くの教えを説かれ、世界中の人々に明るい光を与え続けています。

《誕生》

ヒマラヤのふもとに「カピラバットウ」という国があり、そこに釈迦族という民族が住んでいました。

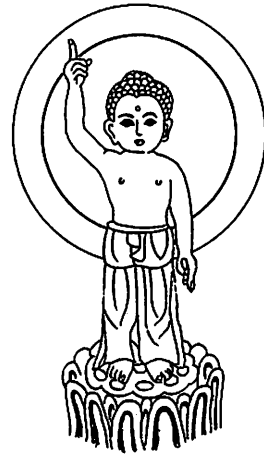
この国は何一つ不自由のない平和な国でした。この国の王さまは浄飯王(スッドダーナ)といい、お妃さまは摩耶(マヤー)と呼ばれていました。ある晩、摩耶夫人は白い美しい象が自分の体に入る夢を見、お腹に子を宿しました。

いよいよお生まれになる日が近づき、摩耶夫人は里のコーリヤ国へと帰られました。そして、途中にある「ルンビニー園」で休息をし、純白の美しい花を見て楽しんでお産が始まり、花の舞い散る四月八日にお釈迦さまはお生まれになりました。このとき、天上から甘い味の雨が降り、お釈迦さまの誕生を喜ばれたといわれています。

そして、そのまま立って七歩あるいたところで、右の手で天を指し、左手で大地を指して、「天上天下唯我独尊」(世界中で自分は最も尊い人間である)と言われました。

今日ではこのお誕生日を祝うのが四月八日の「花祭り」で、天と地を指したお姿の仏像に甘茶をかけてお祝いします。

天上天下



唯我独尊

《生・老・病・死》

父、浄飯王がお釈迦さまの事をアシタ仙人に占ってもらわれましたところ、「家にあれば徳によって全世界を征服する転輪王となるであろうし、また出家すれば人々を救済する仏陀となるであろう。」と予言されました。そして「シッダールタ」と命名されました。

悲しいことに七日目にして母の摩耶夫人が亡くなられ、お釈迦さまは摩耶夫人の末妹マハーパジャーパティが継母となり育てられることになりました。

しかし、他は何一つ不自由のない生活を送ることができました。そして勉強も武術も人よりすぐれた青年に成長しましたが、心がやさしく、虫や鳥が殺されるのを見ても心がいたみ、もの思いにふけることが多くなりました。

心配した王さまのすすめで、お釈迦さまはヤソウダラーという妃と結婚しました。やがて男の子(ラーフラ)も生まれました。

しかし、そのうちにお釈迦さまは一日と、老いとは、病とは、死とは、といった問題に対し考え悩みました。

ある日、東の門から城の外に出ますと、髪は白く腰はまがり、やせ衰えた老人に会いました。また西の門から外出してお葬式の行列に出会い、南の門から出たときは、病み苦しんでいる病人をみまして、更に考え込んでしまいました。

そしてある時北の門から外出した時、欲を捨て、汚れや悩みから離れているお坊さんに会い、大いに感動しました。お釈迦さまが、この四つの門の外出から感じとられた事を「四門出遊」といいます。

武雄温泉へお越の節は
お立寄りお待ちいたしております。

お土産の

大 陽

武雄市武雄町松原三丁目
0952(23)3958

創業100年

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂)
☎0952-23-2955(代)

《出家》

この「四門出遊」が、お釈迦さまの出家の動機となりました。お釈迦さまはある日の夜半に従者チャナンを連れ、愛馬カントカに乗ってマガダ国のバカバ仙人のもとに修行の旅に出られたのです。御年二十九歳のときでした。国を捨て、父母、妻、そして、子どもまで捨てられたお釈迦さまは、どのようにしたら、人々の心の苦を取り除くことができるかを一心に考えられました。そのために修行を続ける日々を送り、またあるときは、アーララ仙人のもとで禪定に入り、心を無にする行を行ないました。それでも解決の糸口が見つかりません。

ついにお釈迦さまは、苦行者たちが集まって熱心に修行している苦行林に移ることにされました。

苦行林に入られたお釈迦さまは、今まで以上に苦しい、また、荒い修行をしました。呼吸をとめる行、断食の行、あるいは厳しく肉体を痛めつける修行を、五人の修行僧（コンダニヤ、パッディヤ、ワッパ、マハーナーマ、アッサジ）とともに六年の間、続けたのです。六年間、ありとあらゆる苦しい修行を積んだお釈迦さまでしたが、やはり、ただ肉体を痛めつけるだけでは理想に到達することはできないということがわかりました。そしてついに苦行を捨てられ、新たに修行を行なうことにしたのです。

お釈迦さまは苦行林を去り、近くのネーランジャラー河というところで、心身を洗い流し、苦行に疲れた体を癒されました。しかし、あまりに弱り果て、疲れきっていたお釈迦さまは、立ち上がることができませんでした。そこへスジャータという若い女性が現れ、お釈迦さまに乳食を捧げました。お釈迦さまは、これを食べて失われていた体力を次第に取り戻したのでした。余談ですが、今日、コーヒーや紅茶にミルクを入れますが、そのミルクにスジャータという名のついたものがあります。実はこの女性の名をとってつけたものなのです。

《成道》

苦行林を去り、体力を回復されたお釈迦さまは、一大決意のもとに、その晩から、ブッタガヤの菩提樹の下に座り、行をはじめられ、思念されました。すると、どこからともなく悪魔がやってきて、お釈迦さまの思念を邪魔しようとするや火で襲ってきたのです。悪魔は何回も何回も姿を変えては、お釈迦さまの心を揺さぶりましたが、お釈迦さまはそのたびに悪魔を追い払い、遠ざけるのでした。そして、夜空に光る星が一つ一つ消えていくたびにお釈迦さまの心は澄み、邪念が消えうせ、ついに十二月八日の明け方近くに、人生の真理（世の中の人々が救わ

れるまことの道）を悟られ、「仏陀」となられたのです。御年三十五歳のときでした。このお釈迦さまが悟られたことを「成道」といいます。

悟られたお釈迦さまは、なおしばらくのあいだ考えられました。それは悟られた内容が易しくはなく、はたして人人が理解してくれるかどうか、という問題があったからでした。これを空から見ている梵天さまが心配し、「お釈迦さま、どうか素晴らしい悟りを人々に説いてください」とお願いし、お釈迦さまはいよいよ人々のために法を説き歩く決意をしたのです。

（お釈迦様を訪ねて）

ヘインド仏蹟参拝団

参加者募集

日蓮宗佐賀県青年会結成四十周年記念事業の一環としてヘインド仏蹟参拝を企画しました。お釈迦様の聖地にお参りし、じかにお釈迦様にふれてみませんか。

時期 平成九年十一月中旬頃出発
十二日間の予定

団費については、次回お知らせします。



手を合わせるころを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308
〒840 ☎ (0952)

創業明治22年

旅館

あけぼの

佐賀市中ノ小路3-10 ☎ (0952) 24-8181

- 寺院用具一式
- 登高座
- 仏壇
- 帷
- 塗物
- 前卓
- 修復
- 人天蓋
- 宗教絵画
- 其の他
- 鍍金物
- 須弥壇
- 美術彫刻品
- 神職用具
- 仏像彫刻
- 殿机
- 貝瑠者
- 瑠者
- 瑠者

寺院紹介(六)

《長教山 修善院》

小城郡三日月町久米一・一九五

修善院は九州唯一の本山、松尾山光勝寺のお膝元三日月町に在り、平井の鬼子母神様のお寺で有名です。

【歴史】

延文四(一三五九)年の創立、開山は智観房日貞上人、応安二(一三六九)年九月十三日寂。日貞上人は下総、千葉大隅守平胤貞の子で、幼少より中山法華經寺二世日高上人の弟子となり、行学の功を積み、法兄の法華經寺三世浄行院日祐上人の委嘱を受けて松尾山光勝寺を開創され、九州総導師職に就き、盛んに布教活動をされて延文年間に松尾西谷に本福寺・修善院を開創され、光勝寺末寺とされた。

日貞上人光勝寺二世となるも、晩年下総中山に還って法宣院を開創し、実兄である日胤上人を開山に迎え、日貞上人は二世となられた。法宣院第五世久遠成院日親上人が松尾

山光勝寺第十五世となられ、中興の祖となられた。

寛永三(一六二六)年修善院第十世日繼上人の代に、佐賀藩主鍋島直茂公の御内室、陽泰院様の帰依を受けて、現在地平井に境内地五反二十歩と二十五石の寺領を賜り、移転再興された。

明治維新前は山門も隆盛であったが、廃藩と共に衰微した。



修善院全景

【諸堂】

第三十二世日秀上人代より堂宇の改築を行い、昭和五十四年第三十四世大平智瑩上人代に現在の立派な本堂、納骨堂、鬼子母神堂等が新築されて寺観一新となる。又昭和三十四年大平智瑩上人終戦後の世相混沌の時期、三つ子の魂百まで……と乳幼児の時より宗教的雰囲気の中で健全な身心の育成を願って保育園を設立し今日に至る。

【寺宝】

浄行院日祐上人のお手紙、慶長十八(一六一三)年作の釈尊像、身延山久遠寺第七十三世、新居日薩上人の御本尊等有り。現在修善院第三十七世住職として大平明定法尼が宝燈継承なされています。



大平明定住職

ちばな保育園

園児を募集しております。

拝む心で尊い品を ◆お仏壇、お仏具のご用命は

梅谷佛具店

仏壇・仏具・寺院用品・寺院納骨堂設計施工
〒812 福岡市博多区奈良屋町3-21 TEL092-271-0456 (代表)

婚礼ふとん・インテリア

寝装の大塚

いれなきの
ふりか

唐津市京町アーケード街 ☎0955-74-5611